



RS SILVER MILD U

RS シルバーマイルド U

# RS SILVER MILD U

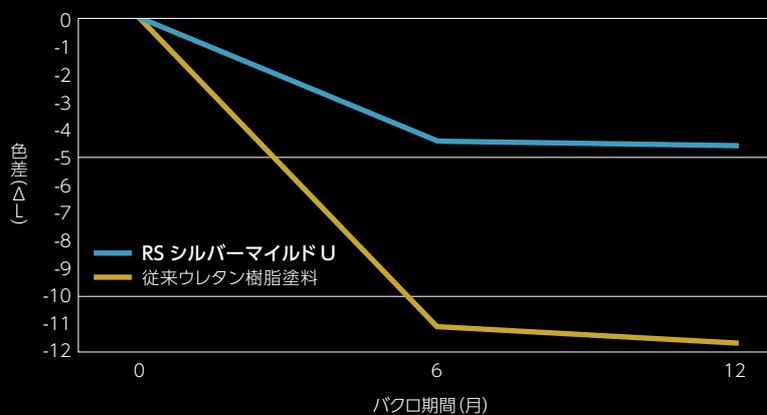
F☆☆☆☆



低汚染性

優れた低汚染性で美観を長期にわたり維持します。

屋外パクロ試験結果(数値が少ないほど色の变化がなく汚れにくい)

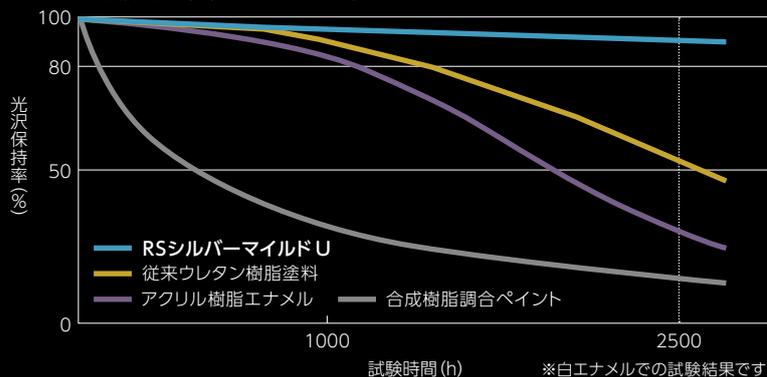


高耐候性

塗膜は劣化とともに、艶(光沢)が低下していきます。

艶の低下速度がゆるやかな程、塗膜の耐候性が高いことを表します。

促進耐候性試験(キセノンランプ法)



※白エナメルでの試験結果です。

※JIS-A-6909耐候形1種(キセノンランプ法2500時間、光沢保持率80%以上)合格レベルの性能を有しています。これは、一般的に10~15年の耐久性に相当します。

2液硬化反応により、優れた塗膜性能を発揮する高級ウレタン樹脂塗料です。

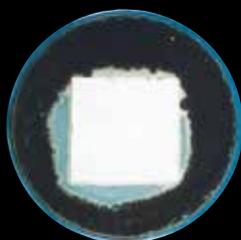
外壁はもちろん、木部、金属部、プラスチック類の保護仕上げなど、幅広くお使いいただけます。



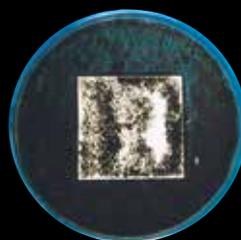
カビや藻が建物に影響する美観の問題や早期劣化の予防に効果を発揮します。

防カビ・防藻性

防カビ性

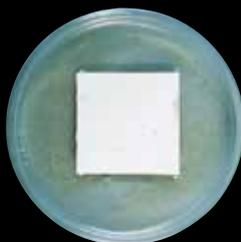


RS シルバーマイルド U

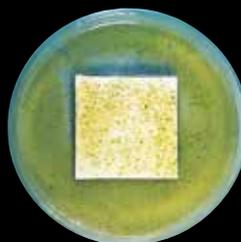


従来アクリル樹脂塗料  
防カビ・防藻剤を配合しない塗料

防藻性



RS シルバーマイルド U



従来アクリル樹脂塗料  
防カビ・防藻剤を配合しない塗料

<試験方法>

カビ類または藻類を培養させた寒天の上に塗膜を置き、一定期間後の状況を観察します。  
中央の四角(塗膜)にカビまたは藻の繁殖が認められれば、防カビ・防藻機能を有していると言えます。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">下塗塗料</div> <p>各種下塗塗料をラインナップしています。</p>	<b>RSマイクロサーフ</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水性</span>	<b>RSマルチシーラー</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">溶剤</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2液</span>
	<b>RSプライマー</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水性</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2液</span>	<b>RSバリア</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">溶剤</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2液</span>

ダブルマイクロ技法により、キメ細かい滑らかな肌を実現します。  
【主な適用素材】 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード

水性で臭気も少なく、幅広い旧塗膜・基材へオールマイティーに対応します。  
【主な適用素材】 コンクリート・モルタル・窯業系サイディングボード

### ■ 塗料性状

荷姿	16kgセット (主剤/硬化剤=14.5kg/1.5kg)	劇物表示 (品名・含有量)	—
混合比	主剤/硬化剤 = 10/1	労安法上の 表示有害物	主剤: イソプロピルアルコール、キシレン 硬化剤: —
色	白および各色	有機則/特化則	主剤: 第3種有機溶剤等 硬化剤: 第3種有機溶剤等
艶	艶あり、7分艶、5分艶、3分艶		
仕上り感	平滑	主剤: 第4類 第2石油類 (非水溶性) 硬化剤: 第4類 第2石油類 (非水溶性)	
塗料比重	混合前: 1.23 (白) 混合後: 1.20 (白)	消防法による 危険物区分	
溶剤比重	0.83	硬化剤の 成分による区分	イソシアネート
加熱残分	60% (白)		

※上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

### ■ 塗装間隔

項目	温度	23℃
標準塗装 間隔	最短	4時間
	最長	7日
使用期限		8時間

### ■ 塗装条件

塗装方法	刷毛	ローラー	エアレススプレー
希釈率	0~10%	0~10%	0~15%
標準所要量(kg/m <sup>2</sup> /回)	0.12	0.12	0.14
希釈剤	塗料用シンナーA		

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。

※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

### — 汚れについて —

●カビ、藻、シーリング材のじみ、鉄サビに起因する汚れは、従来塗料と同等のレベルです。●塗装後3日~1週間から落ちはじめ、その間に付着した汚れも徐々に除去されます。但し、建物の構造上、本来の低汚染性能が十分に発揮しない場合があります。雨樋がけの少ない被塗面や、汚れが大量に流れ落ちる被塗面では、十分な汚れ防止効果が得られないこともありますのでご了承願致します。●足場解体時など、部分補修する際には、汚染ムラの発生原因となりますので、硬化剤の入れ忘れ、不足などに十分注意してください。

### — 施工上の注意事項 —

●塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。●長期間結露が継続し発生するような箇所の塗装は避けてください。塗膜剥離、膨れ等の異状が発生するおそれがあります。●可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。●蓄熱されやすい素材(軽量モルタル、ALC、高熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を用いた「高熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リジンを弾性スタック、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が生じることがありますので、旧塗膜を完全に除去してください。●塗具類(テール、カウター、棚)、床、道具類(ペンチやジャックリムなど)などへの塗装は避けてください。●塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないください。(チヂミ、ニジミ、中うみ、ワレ等発生する場合があります。)●濃彩色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすると、色落ちや艶変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。●下塗り「エコカチオンシーラー」を使用しないでください。チヂミや層間剥離を生じることがあります。●気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工は避けてください。●屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。●塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。●塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨等の水分の影響を受けた場合、低汚染性能を損なう場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。●塗装仕様書に記載の数値は標準のものですが、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。●塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。●旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には、付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。●旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。●吸い込みの善しい下地では、「RSマルチシーラー」を推奨します。●吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定より短い場合、縮み、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。●被塗物の形状、膜厚や色目、塗具類、希釈率の差などにより、実際の色と若干異なる見える場合があります。また塗継ぎ箇所でも艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。●本品を塗装の際は、中塗や上塗に生じやすい傾角があります。試し塗りの上、本施工しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし層間で剥離が生じるおそれがあります。●吸い込みの少ない被塗面や新瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後ガムテープで基材との密着性を確認し、ハシラが生じる部分は塗膜を剥離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。●鮮やかな赤系、黄系、青系、緑系の色で仕上げられる場合は、隠ぺい性の良い共色で予め下塗してから塗装してください。●異なる上塗塗色で塗り重ねる場合(アクセントで帯状に色を塗り重ねる場合など)は、前工程の塗膜が塗料用シンナーで溶解しないこと(硬化剤塗膜)を確認のうえ塗装を行ってください。●無機系樹脂、光触媒処理、珪素樹脂、シリコン樹脂など特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボードに塗装する場合は、下塗材として「RSマルチシーラー」をご使用ください。なお、事前に試し塗り付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。●新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗りを「RSマルチシーラー」をご使用ください。●硬質塩ビ種やFRPの場合は、下地調整と目荒らしと脱脂を行った上で塗装してください。●シーリング打設幅が広く、構造状大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性があります。●シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤(油分)を含まないノンポリードシーリング材をご使用ください。●艶調整品を仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。●艶調整品は、膜厚、温度、色、塗回数、塗装方法、希釈率、主剤/硬化剤混合後の時間差などにより艶の発現性が変化します。特に剛毛ローラー塗装時の塗継ぎ部では膜厚となり、その部位の艶が高くなり、艶ムラを生じやすい傾向があります。●艶調整品は、使用中において塗料に含まれる艶消し剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜攪拌しながらご使用ください。●艶調整品で補修の必要が生じた際は、面を切り、通し塗りを行ってください。●艶調整品で一般部と艶差が出て目立ちます。●艶調整品で面補修を行う際は、1日以上乾燥させた後から行ってください。●補修塗りは7日以内でおこなってください。それ以上経過して補修塗りをする場合、被塗面に水を霧吹きで噴霧し、水滴の親水化程度を点検してください。水滴が被塗面になじんでいる場合、周囲は既に親水化が現れており、主剤/硬化剤比を遵守しても補修部が周囲よりも汚れる場合があります。この場合、区切りの良い面での補修塗りを行ってください。●外壁塗装の足場跡などの補修塗りの際には、硬化剤の入れ忘れに注意し、主剤/硬化剤を正確に計量配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤過不足の場合は汚染ムラ発生の原因となります。●補修塗りにて使用する塗料の控えを必ずとおき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。●補修塗りの際は、塗装方法や凹凸のちがいに伴い、仕上がり性に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りの上で希釈率等を決定してください。●ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。●刷毛塗り、仕上りとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。●塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合に低汚染処理の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。●改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。●改修時、漏水がみられる場合は、予め要因となっている箇所の防水処理を行ってください。●新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合) または表面含水率5%以下(ケット科学社製H500シリーズコンクリートで測定した場合)まで十分乾燥させてください。●水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。●被塗物にたどりや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ、藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。●塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。●タイル洗浄薬剤が塗装面に付着した場合、塗装面の变色や早期劣化を生じることがありますので塗装面の養生を行ってください。●防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。●構造や部位、環境条件により低汚染性が発揮されない場合があります。(傾斜壁の下部、笠木がない壁、汚れが溜まりやすい窓周り、横目地下部、降雨がからかれない面や、シーリング材からの汚染物質の影響など)●低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経つてもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因となります。●主剤/硬化剤の混合比率が合わない場合には、仕上がり、耐熱軟化性、付着性、低汚染性、耐久性等の諸性能に影響しますので正確に計量配合してください。●塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。●規定範囲を超えて希釈すると、ハンキ、光沢低下、色味変化、ダレ、隠蔽力不足など仕りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。●使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内での顔料の分離が生じることがありますので十分攪拌の上でご使用ください。●塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やチヂミ等の不具合を生じることがあります。●塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。●開け残の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないください。●現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。●硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。●溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しやすいので、十分換気を行ってください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。●塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するために浸漬するなどで安全対策を行ってください。●塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。●製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

### — ご使用上の注意事項 —

下地の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。  
【予防策】 ●取り扱いは作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で行い、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにする。●吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。●皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、顔巾・スリッパ・長袖の作業着・前掛けを着用すること。●火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。●火災を発生しない工具・防塵型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。●裸火又は高温の液体に噴霧しないこと。●本来の目的以外に使用しないこと。●指定材以外のものとは混合(多量の白熱)しないこと。●缶の取っ手を持って振った。取り扱う際は、取っ手やフックで吊り下げたりしないこと。●取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄等を行うこと。●使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。●本品の付いた布類や本品のかす等を水に浸して処分すること。【対応】 ●目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受ける

**リフォームサミット店**  
Supported by KANSAI PAINT



リフォームサミット  
紹介動画はこちら

**関西ペイント販売株式会社** 関西ペイントホームページ  
www.kansai.co.jp

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

(23年12月01日PKO) カタログNo.803